

# 桜並木

題字：濱本 清孝 様

デイケア桜の里ご利用者様



お正月のしめ飾りを手に記念写真を1枚。グループホームコスモス2の入居者様にご協力をいただき撮影しました。2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ばかりの一年でしたね。今年も年明け早々から首都圏に緊急事態宣言が発令されるなどまだまだ収束するには時間がかかりそうですね。

しめ飾りは神様の領域と現世を隔てる結界となり、不浄なものが入らないようにする役割を果たします。なので、しめ飾りを手にされた入居者の皆様は魔除けがなされた清らかな存在となり、年神様が安心してきてくださります。よし！これで年神様に守っていただけますので、新型コロナウイルスも近寄って来ませんよ！！無病息災で元気に過ごしていきましょう！



## 桜並木

第51号  
令和3年2月



医療法人  
秋桜会

〒851-2211  
長崎市京泊3丁目30番3号  
TEL 095-850-6866  
FAX 095-850-4888  
WEB [www.cosmos-garden.com](http://www.cosmos-garden.com)

 facebook もご覧ください 

公式サイトへ  
QRコードで  
簡単アクセス



cosmos-garden

## おめでたい言葉を 毛筆で書いてみましょう！

昔の習い事と言えば「そろばん」に「習字」でしたが、時代は変わって今は「水泳」「英会話」「サッカー」なんですって。ン十年前に通っていた習字教室では1月2日に早朝から書き初めをしていたのですがその頃が懐かしい…。

そんな思い出話はさておき、デイケア新港ではご利用者の皆様が書き初めに取り組みました。「何て書けばいいとね？」とご利用者様。「一年の抱負やおめでたい言葉でいいかと思えますよ。思いつかないのであれば、正月にしておきましょうか」とアドバイス。半紙を前に心を鎮め、呼吸を整え、全集中！筆を手に取り『ハネ』『トメ』『ハライ』を意識して…「できた！」

「習字をするなんて、学校卒業以来！」という方もいらっしゃいましたが、昔を思い出しながら熱心に書いてくださっていました。できあがった作品は張り出して飾っておきますので読み返して気持ちを新たにするのもいいかと思えますよ。

皆様が今年も一年元気にお過ごしできるよう願っております。

書き初めをしました

デイケア新港



全集中



## グループホームのある日

昔ながらの正月にする遊びと言えば、「凧あげ」「羽根つき」「福笑い」「独楽まわし」など数多くありますね。グループホームコスモス1でもお正月に入居者様と一緒に「かるた」を楽しみました。

以前購入していた株式会社 KTN 制作の『新・長崎弁かるた』を久しぶりに引き出しから引っ張り出して、机の上に広げると。札を読み上げるのは付属の CD を再生すれば OK と。おお～さすがテレビ局が制作したかるた！読み上げる声はアナウンサー。なんと聞き取りやすい声でしょう。

でも、聞いたことがない言葉がありますよ。「これホントに長崎弁ね？」と入居者様。『新・長崎弁かるた』は県内各地の方言を集めて作ったもので、何でも江戸時代には現在の長崎県エリアに複数の大名がいて、その領地ごとに違う言葉が使われていたため、長崎の方言は地域ごとに大きな違いがあるらしいです。「そりゃ生まれてからずっと長崎」という入居様でさえ「聞いたことなか」となるのは当然ですね。さあ、集中して読み手の声に聞き耳を立ててみましょう。「わたしゃ、地獄耳やけん大丈夫よ」との冗談も飛び交うなど、笑い声が響いたのでした。

新春かるた大会

グループホームコスモス1



新・長崎弁かるた



## 寒さにも、大雪にもマケズ

1月8日～10日かけて長崎市内は雪景色でしたね。朝起きて、屋外の辺り一面の雪を見て「本当にここは長崎？」とってしまいました。

そんな悪天候でしたが、デイサービス・コスモスは3日間とも休業せずに、通常営業しました。もちろん送迎車両のタイヤにはチェーンを巻いて、いつも以上にウルトラ・スーパー安全運転でご利用者様をお迎えに。チェーンを巻いているので、乗り心地は悪かったと思いますがどうかご勘弁を。

利用者様も口々に「こげん雪が降るっちゃ珍しかね～」とおっしゃっていました。送迎中に雪の中を犬の散歩をしている人を見かけました。「犬は寒くないのかな～？」とって事業所に到着したら、こちらも寒さに負けじと雪だるまを制作するスタッフの姿が…。「アンタたち元気かね～」半分あきれ顔で眺めていたら、雪玉をぶつけられる反撃にあいました。

たまには雪が降るのもいいものですが、積もらない程度のほどほどの降雪量でお願いしたいものですね。

大雪でも休業せずに…

---  
 デイサービス・コスモス



## コロナ禍でもサンタは飛び回る

新型コロナ感染症世界的大流行中の昨年12月、世界保健機関（WHO）の新型コロナウイルス担当技術責任者が記者会見での質問に対し、「WHOでは多くの国の指導者から、サンタクロースと空飛ぶトナカイが領空内に入れるよう渡航制限を緩和したと聞いている。サンタは各国の領空を出入りしてプレゼントを届けることができる」と説明したそうです。心に染みわたるニュースですよ。

私たちが暗い顔ばかりしていてもどうしようもない。「入所者様の笑顔が私たちの活力源です。皆様に笑顔をお届けなくては！」熱い気持ちを持ったコスモスガーデン桜の里のスタッフは各階でそれぞれクリスマス会を開催。マジックを披露したり、合唱したり、プレゼントを手渡したり、ケーキを食べたり…。入所者様の笑顔を見ることができ、私たちも「さあ、頑張ろう」と気持ちを新たにしたのでした！！

クリスマス会を各階で

---  
 コスモスガーデン桜の里



Merry  
 Christmas!!



連載小説

# 「僕の暗い青春」

作者：井下長治

※このお話は、フィクション？です

**前回までのあらすじ** 高校生になったの初めての夏休み。幼馴染みのドテカボチャ昭一が夕方突然訪問してきた。友人が浜町屋デパートのアイスクリーム食べ放題で20個食べたらしい。大食いのボクでもそんなには「食べきらんやろう」と挑発してきた。つい挑発に乗り、「30個は食べきれろ」と言ってしまったボク。わずか500円の賭け金で挑戦することになってしまった。日曜日、同伴者の山中とともに浜町屋デパート地階のアイスクリームコーナーに向かう。赤い頭巾で髪を覆った色白のきれいなお店のお姉さんを見て『赤頭巾ちゃんが大人になったらこんな感じかな』と想像を巡らせながら、ボクの戦いが始まったのだった。

▼バニラ、チョコレート、ストロベリーと出てくるアイスを食べいながら食べていたが5、6個目を食べ終えた頃から喉の奥にねっとりとした甘ったるさがこびりつくようになってくる。山中は止めようとするが、ボクはモノともせず食べ続ける。15個目に入った時には、地階の冷房の影響も加わり、寒さで体が少し震え始めてきた。まだ道半ばである。山中が再び心配げに「500円やってもうやめたがヨカっちゃナカや。」とボクを諭す。「ンにや。金の問題じゃなかと。アイに参ったって絶対言いとうナカ。」20個目には歯茎がガクガクと音を立て始める。赤頭巾のお姉さんも「本当に大丈夫？」と声掛けてきた。25個目には耐えきれないほどの寒さでギブアップしそうな心になった心に鞭を入れ、あと1個、あと1個と食べ続け、とうとう最後の1個になった。「最後はバニラで締むうか。」力なく注文を済ませた後、こう続ける。「オイがアイスクリームば30個食うたちゅう証明書ば書いて下さい。」赤頭巾ちゃんは快諾。メモ用紙にサラサラと綴る。証明書を手にするや否や最後の1個を一気にたいらげると、一刻も早くギラつく陽光のもとへと急いだ。しかし真夏の炎天下でさえも震える寒さは暫し続く。▼何とか家にたどり着いた頃、寒さはほとんど感じなくなっていたが、代わって今度はひどい腹痛と水のような下痢に襲われ始めた。堪らず母に薬がないか尋ねると、「あら、熱ンあるとじゃなかね？」と言って体温計を渡された。「よんじゅうど！」そう言うとなぐに彼女は強面オヤジを探し始める。暫く横になっていると強面オヤジの声が聞こえてきた。「何か変なもんば食うたっちゃナカろうか。」母に尋ねている。部屋に入って来るなり「今日は外で何か食ったとか？肉とか魚とか？」この期に及んではもう嘘で逃れられる状況ではないなと覚悟を決めた。「アイスクリームば食べた。」「何てえ～！どこのアイスクリーム屋か！」強面オヤジが怒声を上げる。どこぞの不衛生なアイスクリームを食べたのが原因と早合点したのだろう。「いやその何ちゅうか、アイスクリームのせいちゅう訳じゃのうして、オイがちょっと食べ過ぎたせいで思う。」「食べ過ぎたて言うたっちゃ10も20もは食わんやろうか」「ンにや、もうちょっと食うた。」ハッ？オヤジの目が点になった。「どんだけ食うたとや？」「30・・・」下を向いたまま答える。両親の啞然とした表情が脳裏に浮かぶ。「何ば考えとっとかお前は！なしてそげんコトすっとか！」父親のあまりの剣幕に、かろうじて昭一の名前は伏せたものの事のあらましを話した。暫し沈黙の後、「500円じゃ薬代の足しにもならんぞ」そう言いながら出かけて行った。奴に負かされたくないばかりに通じた男の意地だがたかがアイスクリームで男の矜持とはさすがに言えなかった。▼情に棹さしては流され、意地を通しては腹下す。これが浅はかな今の自分の正味なんだと思い知る16歳の夏。因みにこの時赤頭巾ちゃんに書いてもらった証明書を、後生大事に半世紀以上を経た今もアルバムに残している。(つづく)

